



『関西企業ヒストリア』

～その強さの秘密・転換点を探る～

創業から70年以上の歴史を重ねる会員企業を取り上げ、時代の荒波を乗り越えて、長い期間にわたって生き残り成長してきた強さの秘密、その歴史の転換点を探ります。

第8回 創業 1932年(昭和7年)

株式会社 吉川国工業所

セルロイドから踏み出した モノづくりへの大きな一歩

1932年▶ 吉川国工業所の創業者・吉川国太郎は、義兄が大阪で営むセルロイド製品製造事業を手伝う傍ら、33歳の時に「吉川セルロイド工業所」として自らもその製造に乗り出しました。

セルロイドとは、植物由来のセルロースや樟脳を原料とした世界初の人工樹脂で、当初の吉川セルロイド工業所は、プロマイドや仁丹、歯ブラシ等のケースや、コンパクト、卓球用ボールなどを製造し、遠く東京にも出向いて販売していました。

3年後には、特殊回転式直圧プレス機5台を導入。製造規模の充実に伴い、取り扱い品種もクシやヘアブラシのハンドル等に広がっていきました。長男が戦死したこともあり、次男の利通が先頭に立って、家族で懸命に家業を支えました。

第二次世界大戦中は原料不足もあり、一時鉄工所に転換したこともありましたが、戦後はセルロイド製品の製造・販売を再開することができました。その頃には取り扱う品種も、文具や裁縫箱、石鹸ケースなどに広がりを見せていました。

しかし、セルロイドは耐久性に乏しく、極めて燃えやすい特性を持っており、摩擦などによって簡単に発火するという深刻な欠点を備えていました。吉川セルロイド工業所の工場も火災に見舞われるなどの被害があり、新たな素材の登場が待たれていました。



吉川国太郎(肖像画)

そこで現れたのが、石油を原料とするプラスチックでした。戦後しばらくはセルロイドを手掛けていましたが、当時国内に初登場したプラスチックを扱い始めた取引先から、その優れた生産性や安全性を知った利通は、「これからはセルロイドに代わり、プラスチックの時代が到来する」という確信を持ちました。

プラスチックにシフトし会社設立

1951年▶ 社名を現在の「吉川国工業所」へと改称、プラスチック射出成形機を導入し、セルロイドからプラスチックの大量生産に大きく舵を切りました。

製造アイテムは、バケツや湯桶などの浴用・水回り品、筆箱などの文具類、食卓用品など、生活全般をカバーするまでに広がっていきました。

売り上げも順調に伸び、1959年には法人化を果たしました。代表取締役社長には国太郎が就任し、以降、社屋や倉庫、工場を順次新築・増築し、事業の拡大を図っていきました。



国太郎夫妻と当時の従業員(昭和30年代)

新たな経営・製造・販売体制が整う

1978年▶ 法人設立から19年後の1978年、会長に就いた国太郎に代わって利通が社長に就任。同時に利通の妻・きさ子が常務に就任しました。さらに2年後には利通の長男で大学を卒業した利幸(現社長)が専務に就き、新たな経営体制が整いました。



当時の工場(左:内観 右:外観)

1983年からは本社工場関連施設の拡充を目的とした「5ヶ年開発計画」がスタートし、製造体制を強化するとともに、東京営業所を開設。販売体制の拡充も目指していきました。

当時は「作れば売れる時代」ということもあり、利通は既存の間屋や量販店向け、あるいはOEMでの納入を前提とした製造に徹し、メーカーとしての独自の商品企画や販売促進、情報発信などにはあまり積極的に取り組みませんでした。そのため、意匠の模倣や価格競争に巻き込まれるなどのリスクも付きまといました。

一方、大学在学中からデザインに関心を持ち、若くして専務に就いた利幸は、デザインやイメージの重要性を認識し、新しい感覚と価値観を持っていました。利幸が入社してまず初めに取り掛かった仕事が、カタログのリニューアルでした。それまでの日用品的なイメージを一新させ、ビビッドな色で統一したカタログは業界で話題となりました。



コンセプトやデザインを一新したカタログ

デザインを成長エンジンに 新たな時代のモノづくりを追求

1984年▶ カタログを一新し、次に取り組んだのが商品自体の企画・開発でした。消費者(生活者)の視点やトレンドを意識し、商品独自のコンセプトやデザインを製品に反映させ、他社商品との差別化を図るなど、今の吉川国工業所のモノづくりの起点となりました。

その成果が表れ、1984年、「メッシュラウンドバスケット」がグッドデザイン賞を受賞。以降、同社の製品は13年連続受賞を達成しています。



メッシュラウンドバスケット

**ココが
転換点** 「ライクイット(株)」を設立
そしてリーディングカンパニーへ

1986年▶ グッドデザイン賞受賞の2年後、新しいチャネルの開拓と、新たな感覚の商品シリーズの開発を目指し、「ライクイット株式会社」を設立、利幸が代表に就任しました。また営業拠点を、東京に続き大阪、名古屋、福岡に開設し、全国ネットの販売体制も整えていきました。



「誰かにとっての like なものをお届けできるブランドを目指す」という目標をロゴで表現

そして1999年、吉川国工業所の会長には利通が、社長には利幸が就任し、来るべき21世紀に臨みましたが、その船出は取引先であった旧来の大手問屋が相次いで倒産する中での苦難なものでした。

しかし、既成の市場や枠組みにとらわれることなく、ライクイットのブランディング育成や、海外見本市への出展など、先駆的な活動を続け、業界におけるリーディングカンパニーとしてのポジションを着々と構築していきました。



三代目(現)社長 吉川利幸氏

ライクイットプロダクトの勢いが増す

2010年▶ 吉川国工業所から誕生したライクイット株式会社でしたが、販売価格の差やデザインの統一性などで衝突することが度々起きていました。価格を維持したい専門店部隊と、割引販売をしたい量販店部隊との間でベクトルが必ずしも定まっていなかったため、混乱することも多く、整理する必要があったのです。

そこで、ロゴだけにとどまっていたライクイットを「ライフスタイル提案の企画会社」として位置づけ、販売を開始することにしました。当時の世情も味方し、ライクイットの開発・販売は順調に進みました。

翌年にはライクイットのオンラインストアを開設。吉川国の商品の特徴である、モジュールシステムや積み重ねの構造を考慮し、お客様が同じ商品を買いきつやすいよう、手軽に購入できるメディアとして開設されました。また、原材料の高騰による価格競争が激化する中、商品の価値を発信することも大きな目的の一つでした。

開設当初は、認知度の低さもあり伸び悩みましたが、Facebook等のSNSとの連動や、オンライン限定商品の発売など、工夫を重ねることで低迷期の4倍以上の売り上げを維持しています。

現在では、開発の想いや、より詳しい機能・特徴をトピックスとして紹介するなど、お客様に安心していただくことを第一に、また、ライクイットのブランド力を高める一環として、より良いサイトへと進化し続けています。



「オーガナイザーワイド」
身のまわりの小物を
ひとまとめに収納できる整理箱

吉川国とライクイットの管理を統一 両社協力体制での運営がスタート

2012年▶ 吉川国の強みは、吉川国販路でもライクイット販路でも、様々なチャネルの売り場や商品情報、海外の情報を一手に発信することにあります。これは、当時はどのライバルメーカーにもできないことでした。

しかし、吉川国とライクイット、それぞれの販路を各々で営業活動していたので、いつの間にか互いの情報を十分に共有し活用できる状況ではなくなっていました。

そこで原点に立ち戻り、再度、吉川国・ライクイットの一体運営を開始することにしました。これにより、それぞれの業態を理解し、目指す方向を合わせられるようになりました。

同時期に、全社を挙げてコスト削減に取り組み、徹底的な利益・品質・物流の見直しを行いました。そこには社長の「日々、努力をしてくれている社員に、特別賞などの形で感謝を伝えたい」という思いがありました。この思いを形にするべく、この年より経営理念に「全従業員の物心両面の幸福を追求する」という一文を入れるきっかけとなりました。

創業85周年、新たなる胎動

2017年▶ 吉川国工業所の創業85周年という節目の年、ライクイットもブランド設立30周年を迎えました。記念イベントとしてポップアップストア「暮らしのこだわり雑貨店」を渋谷ロフトにて開催しました。収納用品をはじめとした、暮らしに寄り添う商品や未発売新商品、限定品なども出展。今までライクイットを知らなかった多くの方が商品を購入してくださり、店頭から商品が欠品するほどの盛況ぶりでした。

吉川利幸社長は、「30年前は新宿伊勢丹で初めてポップアップストアを行いブランドがスタートした。30年後、今度は渋谷ロフトで開催することができた。陳列した商品の中には30年前に新宿伊勢丹でも並べさせていただいた商品もあり、開発者としては本当に感無量です。」と翌週の朝礼で全社員に向けて思いを語りました。

「使いやすく合理的、そして長く使い続けられるシンプルなデザインが私たちのモノづくりの原点。より快適な生活の要素に繋がることへの追求心こそが、ライクイットの原動力です。」ライクイットというブランドについてこう掲げる同社。「I like-it」と世界中の人々から愛され続けるブランドを目指して、同社はこれからも常に進化した生活用品を提案し続けていきます。



株式会社 吉川国工業所

本社所在地：奈良県葛城市加守 646-2

従業員数：95名 資本金：2,000万円

事業内容：プラスチック日用品雑貨の企画・製造・販売